

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4270800370
法人名	有限会社やまさき
事業所名	グループホームひなたぼっこ
訪問調査日	平成 20 年 8 月 19 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 30 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270800370
法人名	有限会社やまさき
事業所名	グループホームひなたぼっこ
所在地 (電話番号)	長崎県松浦市志佐町浦免206番地 (電話) 0956-72-1569

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成20年8月19日	評価確定日	平成20年10月30日

【情報提供票より】(平成 20年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 5 月 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 8 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	8 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/>	新築 <input checked="" type="radio"/> 改築 <input type="radio"/>
建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,800 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	<input checked="" type="radio"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成 20年 4月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 8 名	女性 10 名
要介護1	8 名	要介護2	1 名
要介護3	5 名	要介護4	2 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 55 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	押淵病院 高島歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道から少し入った閑静な場所に位置し、広々とした芝生の庭に石製・青銅製のテーブルセットがあり、家庭菜園等利用者の趣味活動ができるようにしている。リビングは吹き抜けで天窓からの自然光を生かした明るく開放的空間が広がっている。玄関脇にはホームの名称を象徴するサンルームがあり、利用者のお気に入りの場所になっていてみんなが集い、温かなほのぼのとした時間を過ごしている。代表者は、職員とともに日常的にケアに関わっており、職員と一丸となって地域の活動や行事に参加するなど地域との関係性を深める取り組みも行っている。職員等は、利用者のできることや得意分野で力を発揮してもらえるような場面設定に努め、利用者との協働を通して、利用者ひとりひとりの役割、生きがいへとつながるように支援し、生き生きと、安心できる暮らしの実現に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価終了後、結果や改善点等を会議にて報告し改善に取り組んだ項目はあるが、改善策の検討・取り組みの結果を具体的に明確にしたもの(改善シート等)は見受けられない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	まず、管理者が自己評価に取り組み、それをもとにカンファレンスで全職員から意見を聞きながら、ホーム全体としての自己評価を行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	前回の改善課題の運営推進会議の開催については実施されているが、会議内容はホームの状況報告に対して意見を伺う程度で会議の進め方に苦慮している。今後は、会議を勉強会の機会として活用したり、メンバーに地域包括支援センターを加える等メンバー構成について検討したりして、さらによりよい会議となるよう取り組むことを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族に対しては、毎月の面会時に日常生活の報告や介護計画の説明等とともに、意見の吸い上げに努めている。遠方に住む家族へは手紙や写真などで月1回の報告をしている。現在は、家族から意見が出されることが少ないが、今後、関係作りに努め、家族からの意見や要望が出しやすい環境への取り組みを期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し会合に出席したり、地域の行事や市の文化祭を見学したりしている。知り合いから米や魚の差し入れがあったり、散歩中近所の方から声をかけてもらったりと、少しずつ理解を得ている。また、市内の中学、高校の実習や大正琴等のボランティアも受け入れている。今後はホーム便りの発行を検討し、地域等へのアプローチの手段として活用することを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所開設当初に、管理者や職員が共同で作成した理念は、事業所の名称に沿ってあいうえお作文のようになり、利用者が大切にしている家族や知人、地域とのつながりを継続できるような支援を心がけている。	○	理念に、地域密着型の考え方を取り入れることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者も、管理者や職員とともにケアに従事していることから、日常的に運営者の考え方が職員に浸透しやすく、職員全員が統一したケア方針のもとに、実践に取り組むよう努めている。理念を額に入れて玄関や事務室に掲示しているが、少々文字が小さく見えにくいように感じられる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の自治会に加入しており、会合に出席したり、地域の行事や市の文化祭を見学したりしている。また、知り合いから米や魚などの差し入れがあったり、利用者が散歩中に近所の方から声をかけてもらうなど、少しずつ地域の理解が得られるようになってきている。地元の中学、高校の実習やヘルパー実習、大正琴等のボランティアも積極的に受け入れている。	○	ホーム便りを家族への報告だけでなく、地域や関係機関への周知手段として捉え、作成の検討を期待したい。また自治会の回覧に加えてもらうなど、地域の中でホームの存在と役割が浸透するよう取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が作成する自己評価をもとに、スタッフ会議で協議をしている。また、前回の外部評価終了後、結果や改善点等について話し合いを行い、ケアに活かしている点が見受けられる。改善については、改善シートなど具体的にどのような点を改善したかの記録などはない。	○	今後、改善シートなどの書式を作成し、改善への取り組み経過や結果を記録して実践に活かしたり、外部評価について利用者家族の理解が得られるよう取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、昨年度末より2ヶ月ごとに開催している。ホーム側からの状況報告や前回の会議後の対応などを中心に意見交換等を行っているが、参加者から意見があまり出されないこともあり、会議の運営の方法に苦慮している様子が窺えた。	○	今後はいろいろな意見や苦情、要望等を聞き、運営に反映することはもちろんのこと、地域にもっと根付くよう、理解や協力が得られる場として活用することを期待したい。また、会議では、報告等だけでなく、時には勉強会の場にするなど、会議の内容に変化を持たせてはいかだろうか。

長崎県 グループホームひなたぼっこ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回の運営推進会議のほか、生活保護受給者の利用者の担当職員がホームに訪問した際に職員から相談したり、居宅介護支援事業者連絡協議会に出席した際、ホームの運営等に関することにアドバイスをもらったりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態等については、家族の訪問時に毎月の請求とあわせて報告している。県外など遠方に住む家族には、利用者の様子がわかる写真や運営者直筆の手紙を送付して知らせている。また、ホームの壁に行事の写真や作品等を掲示して、家族の訪問時に見てもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームを訪問した際に、家族が意見、希望、苦情等を出しやすいように職員から声かけを行っている。家族からはなかなか意見等が出されず、目安箱を設置しているが、意見等入ったことがない。今後はアンケートを用いるなど、家族が意見や希望を表出しやすい工夫に取り組むと効果的ではないだろうか。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者の方針により、異動はユニットごとではなく事業所として行っており、マンネリ化防止のため、ユニット間の異動は半年間を目途としている。基本的に利用者担当制をとっているが、食事、入浴以外の日常のケアにおいては担当にかかわらず、両ユニットの全利用者に全職員で関わるようにしており、異動しても馴染みの関係が維持できるようになっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内を回覧し、職員がそれぞれ参加希望に合わせてホームとの日程調整を行い、有給休暇を取り個人で参加している。研修後はスタッフ会議等で口頭報告し、資料を回覧している。	○	職員の資質向上がサービス向上につながるため、経験年数に応じた段階的な研修を受講できるよう計画を立てたり、出張扱いなど職務専念義務免除としたり、職員の負担軽減のために研修費の一部でも事業所が負担するなどの検討を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の居宅介護支援事業者連絡協議会に加入し、2ヶ月に1回管理者のみ会議に出席している。また、面識のある市内の他事業所の管理者やケアマネジャーとは情報交換を行っているが、管理者以外の職員が同業者との交流をもつ機会はない。	○	近くにある施設との交流の機会を設け、地域との結びつきを強化したり、職員が他事業所から学び、視野を広げてケアサービスの向上に取り組むよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者は、病院から入居するケースが多く、本人の情報を得るために、入院している病院に面会に出向くなどして情報交換を行っている。家族から入居相談を受ける場合は、ホームの見学や昼間の体験利用、行事への参加などを通して、家族にも納得してもらったうえでサービスを開始できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の下ごしらえや配膳などを、利用者と一緒に行っており、魚のさばき方や味付けなど、職員が利用者へ教えてもらうことも多く、お互いが協働しながら、和やかな暮らしを実現している。また、洗濯物干しや衣類たたみを行ったり、男性利用者がチラシ等を利用したごみ箱づくりを行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から、職員は利用者との関わりの中で利用者の意向の把握に努め、必要に合わせて職員と利用者二人だけの場面を作り利用者一人ひとりの思いや悩みを聞き出す努力をしている。以前は自室にこもりがちだった利用者が、自主的に他人と関わろうとする姿が見受けられるようになったことから、職員の温かいケアの結果であることが窺える。	○	誕生日に利用者の嗜好を活かした料理にしたり、献立に利用者の嗜好を反映するなど、利用者の意向や希望にそった具体的な支援に取り組み、さらに利用者が意向を表出しやすいような取り組みを期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の担当職員が本人の希望や家族の意向を聞き、介護計画を作成している。担当者の計画をもとに月1回の職員全員が出席する会議で協議し、最終的な介護計画を作成している。計画作成に必要なモニタリングは担当職員が行い、管理者がチェックしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度、カンファレンスを行い介護計画を見直すとともに、状態変化が生じた場合にも話し合いの機会を設け、利用者の現状に応じた計画の変更を行っている。介護計画を具体化するよう、計画に沿った支援ができていないか、評価を行い、計画の見直しに取り組むと、さらにその人らしい暮らしの支援が継続できるのではないだろうか。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院のついでに買い物などに立ち寄ったり、近くの理髪店から散髪に来てもらったりしている。また、週1回看護師による問診を行っていることで本人や家族の安心を得ている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診しており、市内にある医療機関には職員が同行し、市外への受診は家族とも相談しながら支援しており、家族にお願いする場合もある。ホームの協力医療機関と契約して医療連携体制も整え、それぞれの利用者のかかりつけ医療機関とも密に連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの協力医療機関との契約で医療連携体制を整え、重度化終末期対応指針を作成している。利用者や家族が安心して終末期を過ごせるように、利用契約時に看取りの支援体制について説明し、納得してもらい同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、特に利用者の名前の呼び方に配慮をしており、家族的な親しみのある会話を交わしながらも、利用者の誇りやプライバシーを念頭に置いた言葉かけなどの対応を日頃から徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	手作りのカレンダーや日課表をわかりやすく大きく提示しており、おおまかに日程はあるが、訪問調査当日も、午前中はサンルームで思い思いの活動を行いながら過ごし、午後はオリンピック観戦をするなど、その日の状況で日程を変え、柔軟な支援が行われている。		

長崎県 グループホームひなたぼっこ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、可能な範囲で料理の準備や配膳等を行っている。食事は、毎食職員も同じテーブルを囲み楽しんでい。また、ホームの畑で栽培した野菜を食材に使うなど、旬のものを楽しむ等の様々な工夫をしている。訪問調査当日には、利用者が芋づるを剥いたり、他の利用者の食事介助をしたりしており、食事を楽しむための支援が行われている様子が窺えた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回で大まかな時間帯を決めているが、決められた日以外でも2ユニットで週4日風呂を沸かして対応できるようにしている。利用者一人ひとりに合わせて、好みの湯温にしたり、皮膚に疾患等を持っている場合にはシャワーや足浴、清拭等に対応している。脱衣所の入口に「ゆ」の文字の暖簾をかけて、入浴を拒む利用者でも入浴を楽しめるように支援している。	○	清潔保持のためにも、清拭やシャワー浴も含めて入浴回数を増やす検討を期待したい。特に夏場については、配慮するよう期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農作業を得意にしている利用者が運営者がつくる菜園と一緒に作業したり、調理師をしていた利用者から日頃から食事作りの手伝いや魚をさばってもらったりしている。他にも洗濯物干しや草むしりをしてもらうなど、利用者の生活歴等の情報からそれぞれの得意を活かした日々の暮らしを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	2週間に一度の買い物に出かける際に、利用者2人が一緒に出かけており、それ以外にも通院の帰りに利用者の希望するところ立ち寄り、日常的なちょっとした買い物や花見などへのドライブ等元気な利用者は外出している。	○	一定の利用者だけでなく、重度の場合などでも、庭先の散歩に出るなど、日常的な外出への支援を期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中鍵をかけずに開放しており、門扉も開放している。玄関先の芝生などには、自由に行き来できるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年2回、3～5名程度の参加可能な利用者と一緒に消防訓練を実施している。缶詰等の保存食や消火器などの点検も防火設備管理者にアドバイスをもらいながら実施している。また、台所の棚等は揺れると自動的に戸が開かないような設備になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が、栄養のバランスを考えて毎日の献立を作っており、食後に利用者の食事摂取量等を記入している。水分補給を兼ねて10時と3時、入浴後や外出後等水分を摂取できるようにしている。また、台所のカウンターにも自由に水分が取れるように飲み物を準備している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は、生花が飾られ、手作りのカレンダーや日課表、行事の写真や作品を飾ったりしている。自然採光ができる天窓などにより、開放的で威圧感のない空間となっている。また、マッサージ機、畳の間も設けており、車椅子などでもスムーズに移動ができるような配慮もある。利用者が特にお気に入りのサンルームは、ホームの名称を象徴するように日当たりがよく暖かで、利用者が集まり趣味活動等を行い楽しく過ごせる空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は入居前の自宅と同じような物の配置に心がけ、ベッド以外の荷物はできるだけ馴染みの家財道具等持ち込んでもらっている。仏壇と遺影を飾り、以前はご飯やお茶等もあげていたという利用者もいる。ほかにも趣味のものを飾るなど、それぞれに過ごしやすい居室となるようにしている。また、宿泊希望の家族にも対応出来るようにしている。		